

「Tracing Newspaper in Paint」

毎日、毎朝、定期購読している新聞に目を通す。そこには当然ながら私ではない誰かが撮った写真、あらゆる内容の写真が多数掲載されている。半永久的にウェブ空間を漂うインターネットニュースと違い、紙の新聞は読み終わったら直ちに物としての役目を終え捨てられてしまう。しかし紙面に掲載されている、捨て去られる写真が私の関心を引く。私にとって自分で撮った写真を見ることも、人が撮った写真を見ることも大した違いはない。どちらも「写真」である事に変わりなく、どちらも等しく見ている。そして撮影者にかかわらず、写真を見る行為は難しいのである。

その難しさは、写真に写された対象を手で触れる様に、直接写真の上を絵筆でトレースペイントすることで肉体的に思い知らされる。そして写真部分を絵の具で覆いつくした新聞は額縁に入れ、写真以外の部分はマットで隠す。見えているのは一見写真の様な絵が幾何学的にレイアウトされた「絵」でしかない。新聞というマスメディアは絵画鑑賞という行為に変えられてしまう。

本来のコンテキストから解体され、異なる表面に変えられたメディア、写真はどの様に見えるのか、私の関心はそこにある。

城田圭介

BASE GALLERY / MATRIX JAPAN S.A.
103-0025
東京都中央区日本橋茅場町1-1-6
小浦第一ビル1F
tel : 03 5623 6655
fax : 03 5623 6656
info@basegallery.com
www.basegallery.com